

【千葉県】グループホームわれも紅

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 調査報告概要表

作成日 平成20年1月12日

【評価実施概要】

事業所番号	1277500060
法人名	有限会社 吾亦紅
事業所名	グループホーム われも紅
所在地	千葉県夷隅郡大原町日在1239 (電話) 0470-62-8206
評価機関名	株式会社 日本ビジネスシステム
所在地	千葉県市川市富浜3丁目8番8号
訪問調査日	平成19年12月26日

【情報提供票より】(平成19年10月9日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成13年8月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	11 人	常勤 6人, 非常勤 5人, 常勤換算 5.9人	

(2) 建物概要

建物構造	木造造り		
	2 階建ての	階 ~	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	25,000 円	
敷金	有() 円) (無)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(300,000 円)	有りの場合 償却の有無	有(無)	
食材料費	朝食	200 円	昼食	500 円
	夕食	600 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(月 日現在)

利用者人数	8 名	男性	1 名	女性	7 名
要介護1	0 名	要介護2	0 名		
要介護3	1 名	要介護4	4 名		
要介護5	3 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82.1 歳	最低 75 歳	最高 87 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	ひあり内科医院、小守歯科
---------	--------------

株式会社日本ビジネスシステム

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

浜辺の町の一角に「グループホームわれも紅」がある。古い民宿を改造し建物はどこか懐かしく温かみがあり、思わず「ただいま!」とあいさつをしたくなり、「お帰り!」と答えが返ってくるのではと期待してしまう家庭的な雰囲気を感じられる。理念が示すように親しみのある家庭環境に近いグループホームである。入居者の運動能力や健康状態も千差万別でほとんどが医療行為を必要としている。そのために24時間看護師による看護体制がしっかりなされており、担当の職員が責任を持って介護サービスにあたり、日々の変化に対応しており、入居者もその家族にも安心した生活が確保されている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) 前回までの評価で指摘された問題点をそのつど職員全員で検討し、改善課題を共有し改善してきた。管理者の休暇については入居者の状態次第であるため前向きには考えているが検討中である。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 職員全員が自己評価を行うことで自己自身の問題点を把握すると共に、グループホーム全体の問題点も視野に入れて利用者のためのサービスの向上につげている。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 入居者家族・住民代表・市の職員などを構成員として出席していただき、今の社会現状を見据えた運営推進会議のあり方などを議題として検討している。その他グループホームの現状の説明・取り組みを報告することにより、地域住民の理解を得ると共に、苦情・問題点を前向きに受け止め業務の改善につなげている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 直接管理者が家族と話を聞く機会を設けており、要望については運営推進会議などの議題に掲げ意見を聞いたり、また、職員にレポートを提出させることにより迅速かつ前向きに問題解決の取り組みをしている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 日常の散歩やお祭りを通じて地元地域の人々との交流を心掛けており、地域とのより良い関係作り而努力している。自治会には入会してはいないものの、子供の会の廃品回収などの地域活動に出来る限り参加することを心掛けている。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	家庭を構成している家族の本来あるべき考え方、有り方を基本に置いて理念を作り上げている。日々家族的な親しみのある生活を意識することにより、入居者へのいたわりの気持や安心して暮らせる生活の提供など具体的なケアにつなげている。		地域の中での安心した暮らしの継続と良好な関係を支えるための柔軟な支援の強化のためにも地域密着サービスを盛り込んだ理念を付け加えることを望みます。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を玄関に掲げており、ミーティングなどでも確認がなされ、常に職員全員が共有し、理想とすることで介護サービスの質の向上に生かしているとともに、意識改革のきっかけにもしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	日常の散歩や地元の祭りである”大原はだか祭り”を通じての地元地域の人々とのふれあい、また苦情等に対する迅速な処置により、地域とのより良い関係作りに努力している。自治会には入会してはいないものの、子供の廃品回収などの地域活動に出来る限り参加することを心掛けている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価票は職員全員で記入しており、文章にすることにより自己の欠点を認識し、評価されることにより改善課題を全員で共有し、改善の実践に取り組んでいる。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、グループホームの理解を求めると共に現在の状況や報告、今後の目標などを報告しており、地域とより良い関係づくりに積極的に取り組み、また、会議であがる質疑応答をサービスの向上にも活かしている。		

【千葉県】グループホームわれも紅

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村と密に連絡を取ることで、指導や相談しやすい環境が構築され、運営の課題解決につなげるとともに、情報提供により地域の問題の把握にも取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	われも紅だよりで職員の異動やレクリエーションなど近況の全体報告をしており、変化があった時は随時電話で連絡したり、面会時に直接家族に報告している。金銭管理はしていないため、利用した分は後日請求している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や家族会の集まりなどにおいて直接管理者が話を聞く機会を設けており、今までに苦情は無かったものの、要望については運営推進会議などの議題に掲げ意見を聞いたり、また、職員にはレポートを提出させることにより迅速かつ前向きに問題解決の取り組みをしている。		入居者家族には不満は無いものの不安はある。他の施設では受けられない24時間看護体制がここだけのものとしたら無くなることへの不安は付きまとうだろう。管理者として今の労働時間の体制をもう1度見直しをして家族への安心感につなげることを望みます。
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動はほとんど無いが、新人職員はわれも紅だよりや手紙にて紹介している。慣れるまでは1対1にならないように配慮するなど、利用者や職員ができる限り良い関係になれるように配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今後、より多くの知識・技術などが要求されることを踏まえ、積極的に内外の研修には参加する機会を確保している。研修後は職員全員に内容のコピーを配布したり、自由に関覧できるような仕組みをとるなどし、内容の共有を図ることにより介護のプロとしての意識向上を図っている。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	第6ブロックの職員同士の連絡会を情報収集・情報公開・職員育成の場として活用し、連携を図ることにより孤立することなく、地域全体のサービス水準の向上に取り組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>緊急性があり、医療行為の必要な入居者が多い。落ち着くまでは24時間付添の看護体制をとっており、同じ職員が担当することにより時間をかけて共に馴染めるような工夫をしている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>日常生活の中で人の数だけ学びがあり、人生の先輩に共感することも多い。また、職員が入居者の思いやりに触れたり、自信を持つことができたりと、共に支えあう関係を築いている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>職員全員が利用者とコミュニケーションを取りながら、同じ目線で接したり、アイコンタクトを試みたりと試行錯誤を繰り返すことにより思いを汲み取る努力をしている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入居時に家族の意見を反映したケアプランは作成している。フェイスシートで定義づけをするのではなく、担当職員が毎日変化の記録を付けており、変化に応じて全職員で意見を出し合い、柔軟な対応により介護計画の作成に携わっている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>週1回はケアプラン見直しの日を設け、職員全員の意見交換の記録であるミーティングシートを参考に計画の見直しをしている。変化が生じたときは即時職員全員でミーティングを開き意見交換し、家族の意見・要望も取り入れ、内容を取りまとめてケアプランを作成している。</p>		

【千葉県】グループホームわれも紅

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	管理者が医療行為の必要な入居者のケアのために24時間在中しており、日々変化する状況、要望に応じて家族と連携を取りながら必要な支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	業務日誌にはかかりつけ医との連絡記録があり、入居者全員が半年に1回血液検査を実施していると共に、2ヶ月1回医師に往診に来てもらっている。受診には職員が立会い、医師に指示や助言を受け、そのつど結果を家族に報告している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	管理者は状況の変化に応じ、対応できる最大の支援を家族に説明している。終末期に向けては医師と契約を結んでおり、家族とよく話し合い、意向を踏まえて関係者全員が方針の統一を図っている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ケアプランだけは全員が見ることができるように居間に保管してあるが、その他の個人情報は見えないところに保管してある。日々の暮らしの中で言葉かけや視線を合わせての対応については理念を意識しながら行われ、申し送りなど個人情報の伝達等は耳元でまわりに聞こえないように配慮している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人の持っている機能を最大限活かし、その日の体調に配慮しながら、気持ちを尊重して入居者一人一人に合った過ごし方を提供している。		

【千葉県】グループホームわれも紅

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居時に家族から好みなどを聞いている。運動機能、健康状態に合わせて食事を提供しており、量も形態も違うのでお互い手元が見えないようさりげない置物をで目隠しをする配慮をしている。品数を多くすることがその時の状態で食べたい物の選択を可能にしている。調理全般・片付け等はその日の健康状態・気分に応じて無理のない範囲で参加を促している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一人で入浴できる入居者はいないので複数の職員で入浴介助を行っており、冬は週2回と回数は少ないものの夏は毎日入浴可能であり、入居者の状態に合わせた入浴方法をとっている。入浴後のケアについては医療措置など健康状態に合わせて行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は入居者の運動機能・希望・習慣・その日の状態を把握し、できそうなものを見つけてお願いしている。楽しみごとなどを日々の生活の中から見つけ出し、一人一人に合った豊かな暮らし作りを支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者は健康状態や気分等はその日によってまちまちなので状況に応じて散歩をしたり、グループに分かれてドライブがてら花見にも出掛けたりすることもある。地域のデイサービス事業所との交流会で訪問する機会も設けている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵はかけていない。夜は玄関の鍵はかけるがこのごろは急変で管理者が駆けつけることに備え鍵はかけていない。一人にしないケアを心がけており入居者が外に出た時は離れず寄り添いながら見守りを徹底している。		

【千葉県】グループホームわれも紅

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	非難訓練は定期的に行っており、消防署の協力を得て夜間の地震体制マニュアルを作成し常に掲示してあると共に、近隣住民による具体的な協力や夜間の応援の支援対策も取られている。また、非常食・備品も確保されている。		地震災害はこれからの課題であり、特に災害時の医療器具等は入居者の生命線である。地震の際のこれらの安全確保については今一度職員全員で確認・検討することを希望します。

【千葉県】グループホームわれも紅

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>医者の指導のもと入居者一人一人の摂取量、栄養状態は常に把握しており、栄養確保の設定をし、補給の確保を心がけている。食べなかった時だけチェックをしている。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ところどころに季節を感じさせる花などが飾っており、また、廊下に今までの入居者の写真や行事の写真が掲示しており、にぎやかである。古い建物ではあるが所々に昔の面影を残しており、それが親しみや懐かしさを引き出してくれると共に、構造上食堂が多少狭いことが人の存在を身近に感じることができる。居間には必要に応じてベット等を置き入居者を職員が常に見守るための場所に変えたりと、多目的スペースを状況によって活かす工夫をしている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>職員は入居者一人一人の意向・運動機能、健康状態を確認しながらベットの高さ・手すり・レイアウトなどに工夫を凝らしており、安全第一としながらもその人らしく過ごせる空間作りに取り組んでいる。一人にしないケアの心がけとして個室のドアを一部ガラス窓にすることでさりげない見守りを可能にしている。</p>		